

事務事業名	男女共同参画推進研修事業					☐ マニフェスト関連		☐ 全庁横断課題関連	
政策名	総合計画 04	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり				所属部	総務企画部	所属課	総務課
施策名	計画 17	人権が尊重される社会づくり				所属係	総務選挙班	課長名	出口増穂
基本事業名	体系 63	男女共同参画社会に対する理解の促進				担当者名	岡本貴子	電話番号 (内線)	096-248-1112 1218
予算科目	会計 01	款 02	項 01	目 15	事業	法令根拠	男女共同参画社会基本法		
事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 ☐ 期間限定複数年度→全体計画の投入量を記入 (開始年度 18 年度 ~) (年度 ~ 年度)								
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(期間限定複数年度のみ) (単位:千円)			
(事業の内容) ○男女共同参画社会づくり地域リーダー育成事業(熊本県主催) ・この事業に関わる事前研修(1日)、本研修(3泊4日)、事後研修(1日)に参加して、そこで得た知識や実践方法を、地域のリーダーとしてまちづくりに活かしてもらう。 ○日本女性会議2006しものせき(日本女性会議2006しものせき実行委員会) ・この大会(1泊2日)に参加し、そこで得た知識や実践方法を、地域のまちづくりに活かしてもらう。 ○城北6市男女共同参画担当者研修会 ・他市の現状・成果・課題を論議し、合志市の取り組みに活かす。 ○他自治体主催大会等(他自治体主催) ・近隣市町村が主催する研修会や大会等に参加し、男女共同参画の意識を高めると共に、啓発手法を学び、当市の啓発に活かす。						総投入量	事業費	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 一般財源	
							事業費計 (A)		0
							人件費	正規職員従事人数 延べ業務時間	
							人件費計 (B)		0
							トータルコスト(A)+(B)		0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)

18年度実績(18年度に行った主な活動)

・同上

19年度計画(19年度に計画している主な活動)

・熊本県地域リーダー育成事業参加、城北6市男女共同参画担当者研修会、他自治体主催研修会等参加

② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等

・職員、市民、懇話会委員

③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)

・研修で得たものを地域、職場、懇話会等に広げる

④ 結果(どんな結果に結び付けるのか)

・男女共同参画について正しく理解するようになる。

⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 研修会等数	回

➡

イ

ウ

⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 参加者数	人

➡

イ

ウ

⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 研修に参加して有意義と感じた人数	人

➡

イ

ウ

⑧ 上位成果指標(結果の達成度を表す指標) 数字は記入しない

名称	単位
ア 男女共同参画について正しく理解している市民の割合	%

➡

イ

ウ

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	16年度 (実績)	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (見込)	20年度 (目標)	21年度 (目標)	22年度 (最終目標)
投入量	事業費							
	財源内訳							
	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円		166	150	150	150	150
	事業費計 (A)	千円	0	0	166	150	150	150
	人件費							
	正規職員従事人数	人		4	4	4	4	4
活動指標	延べ業務時間	時間		464	464	464	464	464
	人件費計 (B)	千円	0	0	1,842	1,842	1,842	1,842
	トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	2,008	1,992	1,992	1,992
	活動指標	ア 回			7	7	7	7
		イ						
		ウ						
	対象指標	ア 人			40	40	40	40
		イ						
		ウ						
	成果指標	ア 人			40	40	40	40
上位成果指標		イ						
		ウ						
	上位成果指標	ア %						

合志市

事務事業名	男女共同参画推進研修事業	所属部	総務企画部	所属課	総務課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
・熊本県や他自治体主催の研修会が開催される時、参加していた。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどうか変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？
・内容も講演会形式から、歌や踊り、落語等が取り入れられるようになった。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
・特に聞いていない。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・意図の研修で得たもの(手法、講師選定)を、合志市のイベント等に活かし、男女共同参画について正しく理解することに結びつく。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・他自治体で得た事が、合志市のイベント等に活かされるので、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・対象、意図とも現状で適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 ・研修等の内容を吟味し、いく必要があるものと、ないものを分ける。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】 ・他自治体の研修会等に参加しないと、情報が少なく、合志市の研修会等に活かせない。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある ⇒【理由】(具体的な手段、事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・参加するだけなので、他に手段がない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・県地域リーダー研修は、県が予算を決めるので、削減余地はない。また、各種研修会参加については、日当が廃止されるので、削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 ・参加する人数を制限すれば削減余地はある。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・県地域リーダー研修参加者は、広報で一般公募し、また、そこで得た内容は、地域で活かされるので公平・公正である。また、他自治体の研修会も、そこで得たものが合志市主催のイベント等で活かされるので、公平・公正である。

合志市

事務事業名	男女共同参画推進研修事業	所属部	総務企画部	所属課	総務課
-------	--------------	-----	-------	-----	-----

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)

・参加者を減らせることができるが、その分、取り組みに活かせるものも減ることが考えられる。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☒ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☒ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)
- ・参加者数を減らす。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下	○	×	×

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

・参加者数を減らせば、取り組みに活かせるものも減少する。参加対象者、参加対象研修をよく吟味する必要がある。

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

① 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
- ☐ 一部記述不足のところがある
- ☐ 記述は十分なされている

② 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
- ☐ 一部に客観性を欠いたところがある
- ☐ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

- ① 目的妥当性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ② 有効性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ③ 効率性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり
- ④ 公平性 ☐ 適切 ☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

(4) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統廃合・連携 ☐ 事業のやり方改善(有効性改善)
- ☐ 事業のやり方改善(効率性改善) ☐ 事業のやり方改善(公平性改善)
- ☐ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

(5) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			×
	低下		×	×

(6) その他2次評価会議で指摘された事項